

聖霊降臨節第10主日・(緑)

主日礼拝

2026年7月26日 10時20分～

司式：
奏楽：

「キリストの体」

『民数記』では、神がモーセ一人に負わせていた民の指導の重荷を七十人の長老と分かち合うため、モーセに与えていた霊を彼らにも授けられました。そのしるしとして長老たちは預言し、神によって指導者として任命されたことが示されます。また、宿営に残っていたエルダドとメダドにも神の霊が臨み、神の働きは人間の定めた場所や形式に制限されないことが明らかになりました。ヨシュアはこれを制止しようとはしますが、モーセは「主の民すべてが預言者になり、主がご自身の霊を彼らの上に与えてくださればよいと望んでいるのだ」と語り、自らの権威ではなく神の恵みが広く与えられることを願います。この願いは、ヨエル書の「すべての人に霊を注ぐ」という預言、さらにペンテコステで聖霊が信じる者たちに注がれた出来事へとつながる、神の救いの計画を示す重要な箇所です。

『コリントの信徒への手紙一』では、教会が「キリストの体」にたとえられています。体が多くの部分から成り立つように、教会にもさまざまな賜物や役割を持つ人々がいます。足や耳が自分を不要と思う必要はなく、また目や頭が他の部分を軽んじることもできません。神はご自身の御心に従って一人一人を配置し、それぞれに大切な役割を与えられました。特に弱く見える部分ほど重要であり、互いに尊び合うように定められています。その目的は、教会に分裂が生じることなく、すべての人が互いを思いやり、一つの体として生きるためです。そのため、一人が苦しめば皆が共に苦しみ、一人が尊ばれれば皆が共に喜びます。この箇所は、多様性の中にある一致こそ、神が望まれる教会の姿であることを教えています。

《神の招き》

前 奏 『主の招く声が（讃美歌 21－516）』 蒔田尚昊
招 詞 テサロニケの信徒への手紙一5章10節
賛 美 歌 教会福音讃美歌 29

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 民数記11章24～29節 (旧約217頁)
コリントの信徒への手紙一12章14～26節 (新約310頁)

子ども説教
交読詩編 13編1～6節 (17頁)
賛 美 歌 512
説 教 「キリストの体」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 390

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 39－6
祝 福
報 告
後 奏 『主のみことばたよりなり』 Betty Hudson

礼拝当番： (役員：) 献金当番：
音響： 映像：